

天声人語

忌まわしい事件さえなければ
2人も明るく登校していたに違
いない。中1の平田奈津美さん
と星野凌斗りょうとさんが通っていた大
阪府寝屋川市の中学校は、きの
うが2学期の始業式だった。去

年の9月に書いた当コラムが頭をよぎる
▼「これからは第二学期で秋です」と宮
沢賢治の童話『風の又三郎』の先生は登
校してきた児童らに語りかける。「今日
から又またいっしょにしっかり勉強しましよ
う」。このくだりを去年、神戸市で小1
の女兒が殺害されて見つかったときに引
いた▼その子は2学期から、クラスの朝
会などで音楽を流す係になって張り切っ
ていた。希望があったらうに、むごい犯
罪に胸が詰まるとつづった。前途ある命
がまた魔手にかかり、ほぼ1年をへて繰
り返すコラムに、悲しみと怒りが消えな
い▼中1といえば大人の入り口。なにご
とにも背伸びをするのは成長の証しでも
あるう。つけ入る凶悪犯罪から守れなか
った悔いを、関わりのある人だけのもの
にはしたくない▼今の時代、見て見ぬふ
りをする人は多い。哲学者の鷲田清一さ
んが、それと逆の「見ないふりをしてち
ゃんと見ている大人のまなざし」につい
て言っていた。誰それとなく、子どもが
無茶をしないか黙って遠目に見ているよ
うな社会である▼行なうは難たしだと誰でも
思う。ただ、大人のひと声でかわせる危
険もあるだろう。防犯カメラは有用だが
心配する心までは持ち合わせない。こ
こは人の出番なのだと心の隅に留めた
いと思う。当方も一人の大人として。